



ましみずの里

～幸せをつかむため、自ら考え行動する子供～

天童市立高擣小学校
学校だより №.6
令和7年10月24日
校長 鈴木博志

令和7年4月17日に、全国の小学6年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。本校では、67名の6年生が参加しました。例年、小学校は国語と算数の2教科の実施ですが、今年度は理科が加わり、3教科での実施となりました。この度、結果についての集計と分析が終わりましたのでお知らせいたします。

1 「教科に関する調査」について

(1) 教科別の平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
本校	県平均、全国平均を下回る	県平均、全国平均をやや下回る	県平均、全国平均並み
県	65	55	58
全国	66.8	58.0	57.1

(2) 問題別 (○: 全国と比較して高い ●: 全国と比較して低い)

① 国語について

- 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- 目的や意図に応じて伝える内容を検討したり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする。
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。
- 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。

② 算数について

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を記述する。
- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する。
- 平行四辺形や台形の性質について理解し、コンパスを用いて作図する。
- 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する。
- 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える。
- 分数の加法について共通する単位分数を見いだし、幾つかを数や言葉を用いて記述する。

③ 理科について

- 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解する。
- 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し表現する。
- 種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見いだし、表現する。
- 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に概念的に理解する。

2 「児童質問紙」について（○：全国と比較して高い ●：全国と比較して低い）

○国語、算数、理科の勉強が好き。 ○国語の学習は、将来、役に立つと思う。

●算数、理科の学習は、将来、役に立つと思う。

●算数で学習したことを普段の生活で活用する。

○朝食を毎日食べている。 ○将来の夢や目標を持っている。

○友達関係に満足している。

●自分にはよいところがある。 ●人が困っている時、進んで助ける。

●学校に行くのは楽しい。 ●学校の授業時間以外に読書をする。

●自然の中で遊んだり自然観察をしたりする。

●習い事以外で、地域の大人と授業や放課後などに関わることがある。

●周りの人の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組む。

●総合学習では、自分で課題を立てたり発表したりしている。

●道徳の授業で、自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組む。

3 総 括

全国学力・学習状況調査では、基本的な知識から活用力を問う問題まで、様々な形式の問題が出題されました。本校児童の正答率が全国比で低かった問題について分析したところ、以下のような課題が見られました。

- ・目的や意図に応じて内容を検討する、内容を捉える、考えを書き表す【国語】
- ・目的に応じて適切な情報を選択する、必要な情報を選ぶ【算数】
- ・わかっていることを基に、新たな問題を見いだし、表現する【理科】

これらを要約すると、

「場に応じて臨機応変に考えたり表現したりする力」

に課題があると言えます。

また、児童質問紙からは以下の傾向が見られました。

- ・勉強が好きな児童が多いものの、算数・理科を学ぶ必要感は薄い。
- ・夢や目標を持ち、友達と良好な関係を築いている一方で、自己肯定感は低い。
- ・読書量が少なく、人やモノに触れる経験も少ない。
- ・自分で課題を立てたり、協力して解決方法を考えたりする学習の経験が少ない。

これらのことから、本校では、

「学ぶ意味や必要感が伝わる本物に触れる授業」

「子供たちが自分で作り上げ、自信を深める学習活動」

について充実させていく必要があると考えています。

今年度より、「対話を通して納得感を追究する子供の育成」をテーマに掲げ、算数科を窓口にした研究に取り組んでいます。今回の調査で明らかになった課題を職員で共有し、校内での研修体制を充実させながら、引き続き学力の向上に向けて取り組んでまいります。